

■日時 令和5年8月20日(日) ■天候 晴れ

星槎国際高校・東京・通 対 大智学園高校・通

■球場 駒沢硬式野球場 第1試合 5回戦 決勝 ■試合時間 3時間11分 ■備考

■審判 球審:竹本 塁審:牧野 谷川 清水 中断5分(治療)

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
星槎東京・通	東京2	3	0	2	4	0	0	0	1	1	11	11	1
大智学園・通	東京1	1	0	0	0	0	2	2	0	3	8	6	4

星槎東京・通

	ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	一	酒井康太	5	2	1	0	右安	中飛		一失	三振				投ゴ				
2	遊	大立目隆己	3	1	0	0	投犠	三振		四球		三振			三振				
3	三	吉澤誠章	4	2	1	0	投失		左安	四球		三ゴ			三振				
4	捕	宮澤陽向	5	4	2	1	左安		中2	振逃		三振							
5	投	西村颯真	5	0	3	4	左2		中安	右安			一失		投ゴ				
6	中	江頭佑星	3	0	0	1	右犠		投飛	四球			投ゴ		三振				
7	左	小林黎也	5	0	2	1		左安	三ゴ	三振			三ゴ					右3	
8	右	中村泰紀	3	1	1	0		三振		中安	三振								
8	右	前田光紀	1	0	0	0							一ゴ					四球	
9	二	榊原悠斗	4	1	1	1			四球		遊飛	三振				左本		三振	
合計			38	11	11	8	残塁:7 併殺:0												
備考																			

■バッテリー

投手	捕手
西村颯真	宮澤陽向

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責	投球数
西村颯真	9	45	6	11	11	5	181

大智学園・通

	ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	中	石井豪	3	3	0	0	四球		投ゴ		投ゴ		三失		四球				
2	右遊	山田薫大	3	3	2	2	四球		三ゴ			死球	右3		左3				
3	遊投	森本尋大	4	2	3	3	三振		四球			中3	遊安		中安				
4	一	岩崎宏優	3	0	0	1	中犠		三振			四球	中飛		一飛				
5	三	森崎圭太	4	0	0	1	三振			投邪		中ゴ		遊ゴ	四球				
6	二	北沢琉真	4	0	1	0		死球		三振		投ゴ		中失	三安				
7	左	加藤啓太	2	0	0	0		三振		三振									
7	打	渡邊敦貴	1	0	0	0						三振							
7	打	船津勇真	0	0	0	0													
7	打	古賀友樹	0	0	0	0								四球					
7	打	新嵩勇武	1	0	0	0												三振	
8	投	宮本大輔	1	0	0	0		二ゴ											
8	右	佐藤薫	2	0	0	1					投ゴ		三振	四球	四球				
9	捕	辻順夫	5	0	0	0		三ゴ			二ゴ		三振	三ゴ	三振				
合計			33	8	6	8	残塁:10 併殺:2												
備考																			

■バッテリー

投手	捕手
宮本大輔	辻順夫
森本尋大	

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責	投球数
宮本大輔	3	1/3	20	8	2	3	73
森本尋大	5	2/3	25	3	11	1	95

■戦評

台風7号の影響により大会日程を1日順延して駒沢球場にて行われた70回大会の決勝戦はここまでの3試合をコールドで勝ち上がった星槎国際高校・東京・通信制と昨日の準決勝で天理高校に勝利し昨年の雪辱を晴らした大智学園高校・通信制の対戦となり44回大会以来26年ぶりの東京都代表同士の顔合わせとなった。大智学園は昨日準々決勝で先発した宮本に星槎国際・東京は背番号10の主戦西村に大一番のマウンドを託した。先攻の星槎国際・東京は初回4番宮澤の適時安打や6番江頭の犠飛などにより3点を先制すると3回3番吉澤からの三連打で2点を追加する。勢いに乗る星槎国際・東京は4回ボークにより追加点を奪うところで大智学園は主戦森本をマウンドに送る。しかし星槎国際・東京の勢いは止まらず暴投と適時安打により追加点を奪いこの回計4点を奪う。初回に4番岩崎の犠飛により1点を返した大智学園であったが2回以降無安打に抑えられ反撃の糸口をつかめない。9-1で迎えた6回大智学園は無死一塁から3番森本がチーム初安打となる適時三塁打を放つと4番岩崎の内野安打で自らも生還し2点を返す。続く7回2番山田の適時三塁打などで2点を奪い4点差に追い上げる。引き離したい星槎国際・東京は8回9番榊原のランニング本塁打と9回7番小林の適時三塁打で1点ずつを追加し6点差として試合は9回裏へ。粘る大智学園は先頭1番石井の四球から3本の安打と二つの四球により3点を返し二死満塁と長打が出れば同点本塁打で逆転サヨナラとなる好機を作る。ここで星槎国際・東京西村が最後の力を振り絞り後続を三振に抑え11-8で試合終了。この決勝戦で181球の完投を見せた主戦西村をはじめ安定した投手陣と下位打線までどこからでも長打が打てる強力打線を擁した星槎国際・東京が初優勝を飾り5日間の熱戦は幕を閉じた。一方惜しくも2年連続準優勝となった大智学園であったが主戦森本の準決勝戦をはじめ計3試合34奪三振463球の熱投は優勝した星槎国際・東京同様に大会の歴史に深く刻まれたことを最後に記しておく。